

スマートエイジング・シティの具体化に向けた調査報告書

事業者ヒアリング調査結果（概要）

大阪市政策企画室

～調査概要～

（１）調査の目的

実際に様々なサービス等を提供されている各事業所等の意向や人口減少・少子高齢化が進む中、今後、どのようなことを期待されているかなどについて意見を聞き今後の施策の展開に役立てることを目的とする。

（２）調査の設計

- ①調査対象 当該地域周辺を中心に、実際にサービスを提供していくことが想定される医療・薬事関連、福祉・介護関連、大学等教育・文化関連、日常生活品販売・宅配・ライフライン等関連、住宅・交通・ICT・ヘルスケア関連等の分野、43 事業者を調査対象とした。
- ②調査方法 大阪府市医療戦略会議提言を抜粋し、スマートエイジング・シティについて説明した後、ヒアリング調査票をもとに、直接対面して、事業者から意見やアイデア等を聞き取る方法により実施した。
- ③調査期間 平成 27 年 10 月 19 日～12 月 10 日

ヒアリング結果の要約

1. スマートエイジング・シティについての感想

〔医療・薬事関連分野〕

- ・地域力を発揮させることが大切であり、空き室等を活用しながら、様々な事業者と協働して取組みを進めていくなど、何かのきっかけとなる仕掛けが必要である。
- ・在宅療養を進めていくためには、情報共有の仕組みが必要であり、行政の持つ情報を最大限に活用しながら介護等、様々な関係者が有する情報をつなげていくことが大切である。
- ・まちづくりに関わる関係者がそれぞれの役割を意識しながら、まずはできることから全部やってみることが大切である。
- ・往診先の高齢者のほとんどは、外出したいと思っているが希望通りにならなく、そうした点も考慮したサービスがあればいい。
- ・急性期ニーズにも応えながら、家で最後は看取れるようなところをめざしていくような取組みを意識していかなければいけない。

〔福祉・介護関連分野〕

- ・今後のまちづくりは、街路や公園等単なる空間の創造を意識するだけでなく、高齢者の生活支援の部分に関して配慮することが必要である。
- ・地域の高齢者介護や支援にこれまで取り組んでいるが、今後もそれは必要なことである。
- ・高齢者だけを意識するのではなく、こどもからお年寄りまで誰もが安心して暮らせるまちづくりが地域包括ケアシステムの理念である。

〔大学等教育・文化関連分野〕

- ・就労支援、人材育成、見守り等いろいろな相談ができる場所をつくるというのは大変面白い。
- ・作業療法士の観点から、今後は特に介護予防の視点が重視されており、その意味からも非常に興味深く、介護予防をターゲットにしながらニーズをはっきりさせていくことが大切である。
- ・言語聴覚士の観点から、地域にいかに入っていくかが重要であり、その意味でもこの取組みの流れを見ながら、学生が地域の高齢者と一緒にコミュニケーションが取れるいい機会になるのではないかな。
- ・自治体と一緒にあって、高齢者に配慮した地域のまちづくりに向けて、キャンペーンやシンポジウム等積極的に取り入れていけばいい。

〔日用品販売・宅配・ライフライン等関連分野〕

- ・少子高齢社会に向けて、大変意義深い取組みである。
- ・若い人も入っていけるような仕組みもあればいい。
- ・宅配事業者でも、都会の買い物難民に対して、日用品の販売を行っており、そうした部分も活用していい。
- ・定期刊行物等の配達や地域の宅配拠点を活用した見守り活動等、新たな取組みに対する期待が持てる。
- ・ライフライン事業者も住宅事業者と協働して見守りサービスを展開しており、そうしたことも活かしていければいい。

〔住宅・交通・ICT・ヘルスケア関連分野〕

- ・既存の住宅を活用して、一部の地域に不足している医療や福祉施設を誘致したり、様々な事業者と連携して、高齢者や子育て世帯が住みやすい環境づくりが大切である。
- ・既存の住宅を活用して、健康を意識したイベントの開催等、住民の交流を促進する仕組みも組み入れていけたらいい。
- ・新たなソフトウェアとICT、これまでの日常の電化製品等も組み合わせながら、超高齢社会にも対応していけたらいい。
- ・地域のタウン情報を活用した積極的な取組みを期待したい。
- ・地域内に所在する会社として、できるだけ地域の取組みに協力していきたい。



2. 取り入れたいと考えられるサービス、アイデア等について

〔医療・薬事関連分野〕

- ・薬局とかかりつけ医とをつなぐ「まちの保健室」の設置
- ・子育て等で休んでいる薬剤師による健康相談
- ・ICTを活用した医療・介護・福祉等多職種連携システムの構築
- ・団地等の空き室やスペース等を活用した、リハビリ指導、予防介護
- ・医療食を提供しながら相談員とともにちょっとしたことをすくい上げられるようなサロン風な場の設置
- ・ワンストップでいろいろな相談が受けられる場
- ・3年に1回のガス検診を利用して医療関係者が同伴する実態調査
- ・警備会社と連携した契約時の鍵の預かり
- ・がん検診と認知症診断を合わせた企画
- ・トイレ等に補助用具を取り付けるなど既存の団地等での在宅療養のための工夫
- ・子育て世代が安心して、小さな子どもを見てもらいながら、通院できるようなしなかけ
- ・飲み物や薬品等の配達を活用した訪問看護、見守りサービス、療養管理指導
- ・高齢者への薬の配達、残薬回収

〔福祉・介護関連分野〕

- ・昭和や大正の街をイメージしたカフェ
- ・市場をイメージしたスーパーマーケット
- ・囲碁、将棋など娯楽を通じた介護予防
- ・高齢者に特化したスポーツクラブ
- ・ミニ植物園
- ・ボランティアや園児などの舞台の共演
- ・鍵預かり事業
- ・様々なワンコインサービス



〔大学等教育・文化関連分野〕

- ・学生とともに地域に出でこない高齢者と協働での公開講座や劇の上演
- ・既存団地の空き室を地方から出てきた学生たちへ提供し学生寮に活用
- ・往診専門の若手の医師の招聘
- ・全国どこでも使える健康カードと日常的に健康チェックできるサービス

〔日用品販売・宅配・ライフライン等関連分野〕

- ・万歩計等測定したデータを店舗内の端末にかざすだけで健康状態をチェックできるシステム
- ・店舗の駐車場スペースを活用した検診の実施
- ・「健康スポーツ」+「食」+「文化」をコラボしたイベントの開催
- ・スマートメーターを活用し、住宅事業者と協働して賃料に組み込む見守りサービス
- ・高齢世帯と子育て世代との近距離家賃減免サービス

〔住宅・交通・ICT・ヘルスケア関連分野〕

- ・駅スペースを活用した託児所
- ・テレビ、ICT、ロボットを活用した見守りサービス
- ・子育て世代向けのワンストップ窓口
- ・まちづくりに協力する事業者向けのセミナーの開催
- ・ICTを用いて地域・タウン情報を高齢者のコミュニティツールとして活用
- ・地域行事を活用した住民の健康チェックと意識調査



3. 上記のサービス、アイデア等に対して考えられる問題点・課題について

アイデア等の実施に向けて考えられる問題点・課題を以下のとおり抽出しました。

〔資金の調達面〕

「まちの保健室の設置」、「空きスペースを使ったリハビリ施設」、「ICT を活用したシステムの構築」等、いずれもハードの整備やシステムの構築にかなりの初期費用の発生が見込まれるとともに、運営に際しても、人件費や諸経費等のランニングコストが相当必要となるが、費用負担を誰が行うのか、ビジネスとして維持、継続していけるかが事業者側にとっての重要な課題。

〔個人情報の取り扱い〕

今後、「高齢者への薬の宅配・残薬回収」、「鍵の預かり」、「情報共有システムの構築」などの取組みを推進するためには、住民の生命を守り、安心・安全を確保する観点から、個人情報保護に関して柔軟な運用の検討が必要。

〔人材確保と人材育成〕

「訪問介護の拡充や見守りサービス」、「配食・配送サービス」、「スポーツクラブや文化芸術的講座の開催・運営」といった取組みを実施していくためには、ノウハウを有する人材が必要。今後、いかに新しい人材を育成し、確保していくのが重要な課題。

〔受益者の意識改革〕

自宅に引きこもる高齢者が増大する傾向にあり、今後、リハビリや介護予防を進めていくためにも、高齢者含む受益者の意識改革が必要。

〔制度、管理運営〕

「見守りサービスの実施」や「鍵の預かり」など、トラブルが発生した際の責任等管理面・運用面からの制約があり、関係者間でしっかりと協議を重ねていけるようなしくみづくりを検討することが大切。

〔官民協働〕

「見守りサービスを組み込んだ賃料設定」や「高齢者が移動しても持ちまわれる健康カードの導入」といったアイデアについては、一つの民間事業者で実現しうるものではない。今後、スマートエイジング・シティの具体化に向けては、公共と民間事業者や協力者がいかに連携し、それぞれの役割を意識し、政策面、人材面、資金面等を分担していくのが重要な視点である。そうして視点を踏まえた協力体制を各地域において確立していくことが求められる。



(4) 事業者が考えるシニア世代や子育て世代が必要とするニーズ

①シニア世代のニーズ

〔医療・薬事関連分野〕

- ・健康や介護について相談できる場所
- ・地域包括支援センターのランチ
- ・日常生活の各種支援サービスのヘルパー(買物、飲料の宅配、電球の取り換え等)
- ・日常生活品(洗剤、トイレトペーパー)などが近くで購入できる薬局

〔福祉・介護関連分野〕

- ・みんなが集まって自由に過ごせる場所(福祉、介護関係)

〔住宅・交通関連分野〕

- ・高齢者向け住宅の供給
- ・駅周辺での介護事業、バリアフリー対象等利用しやすい駅環境づくり



②子育て世代のニーズ

〔医療・薬事関連分野〕

- ・子どもの薬等について指導をもらえる場所

〔福祉・介護関連分野〕

- ・学童保育のような放課後児童が集える居場所
- ・子育て世帯向け家賃割引制度や「近居割引制度」

〔交通関連分野〕

- ・駅周辺での託児所の運営



(5) 地域のイベント等への参加意向

地域で健康イベントなどが開催された場合の出展等の参加意向について、次のとおり積極的な意見がありました。

- ・具体的なものとしては、地域の祭りへの参加、健康フェアの開催、定期的な講演会の実施、出前講座への協力、行政主催のイベントへの協働、公開講座、地域での疲労度・健康度測定、駐車場等を活用した検診車による検診、ライフガーデンやふれあいハイキングへの参加 等

今回、モデルエリアにおける様々な事業者の皆さまにご協力をいただき、以上のような結果が出ました。
当該アンケート結果につきましては、医療・健康・介護・住まいなど様々なサービスを重ね合わせながら、市民の方々が済み慣れた地域で安心して住み続けられるようなまちづくりを進めていくための参考として活用させていただく予定です。

・スマートエイジング・シティについて… 大阪府市医療戦略会議 提言

(<http://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000252730.html>)

